

## フランク・R・アシオン氏

1969年ジョージタウン大学卒業。1973年ノースカロライナ大学チャペルヒル校心理学博士課程修了。ユタ州立大学心理学部教授、家族・人間発達学科助教授。子どもの反社会的・向社会的行動の発達についての論文を数多く発表。「Cruelty to Animals and Interpersonal Violence: Readings in Research and Application(動物虐待と対人暴力～研究・応用読本)」、「Child Abuse, Domestic Violence, and Animal Abuse: Linking the Circles of Compassion for Prevention and Intervention(幼児虐待・家庭内暴力・動物虐待～防止、介入のための思いやりの輪)」(共に1998年パーデュ大学出版)を共同編集、「Safe Havens for Pets: Guidelines for Programs Sheltering Pets for Women who are Battered(ペットのための安全な環境～虐待を受けた女性のための動物保護プログラム)」を執筆。2001年秋、同氏の動物虐待と少年暴力に関する論評がアメリカ少年司法および非行防止局の研究紀要で発表される。人と動物の相互作用国際学会及び国際人間動物学協会2001年優秀研究者賞を受賞。

さらにアシオン博士は、道徳教育および子どもの動物への態度を研究。特に近年は、動物虐待を行う子どもや思春期の青少年に着目している。この研究は、人と動物に暴力を起こす青少年に共通に見られる根底の原因を調べ、このようなリスクを持った子どもを、早期に発見するための見つけだすためのものである。アシオン博士は、テルアビブ、ジェノバ、ダブリン、ブラハ、フィレンツェ、ローマ、ブリュッセル、ヨテポリ、ケンブリッジ、トロント、バンクーバー(ブリティッシュ・コロンビア州)、ロンドン(オンタリオ州)、リオ・デ・ジャネイロ、アムステルダムでの国際会議や地方国内の会議で招待講演を行なっている。また、福祉サービス、社会福祉事業、虐待を受けた子どもの施設、少年更正施設や虐待を受けた女性のシェルターの職員らとの共同研究も手がける。米国動物愛護協会、マサチューセッツ動物虐待防止協会、アメリカ動物愛護協会、アメリカ人道協会、スコット・チャリタブル・トラスト、ジェラルディン・R・ドッジ基金から研究への支援を受ける。またアシオン博士は、ユタ、オハイオ、コロラド、ワシントンの州議会に、動物愛護法の立案に関する資料や証拠書類などの提供を行っている。

アメリカ心理学会、児童発達学会、会員。米国動物愛護協会科学諮問協議会、レイサム基金児童動物虐待防止諮問協議会委員。人間発達研究南西部協会元会長、アメリカ心理学会家庭内暴力に関する大統領特別委員会幹部専門委員。

ニューヨーク出身。妻デボラとの間にマシュー、キャサリン、デビッドの三人の子を持つ。ユタ州、ローガン在住。

\*\*\*\*\*

はとがい たるう  
鳩 貝 太郎

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官  
専門分野

生物教育，科学教育，環境教育

略歴

東京教育大学農学部卒業後，千葉県公立高等学校教諭，千葉県総合教育センター研究指導主事を経て，平成7年4月から国立教育研究所 科学教育研究センター 生物教育研究室長。平成13年1月から省庁再編により国立教育研究所が国立教育政策研究所に改組され現職。

この間，文部省高等学校学習指導要領調査研究協力者（理科・生物），文部科学省「体験活動事例集」作成協力者，同サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業推進評価委員，千葉県立現代産業科学館客員研究員，千葉県立房総風土記の丘研究員，栃木県総合教育センター環境学習指導資料作成委員会指導助言者，日本生物教育学会常任理事，日本科学教育学会理事などを歴任。

平成14年10月には日本学術会議科学教育研連・獣医学研連共催シンポジウム「学校における飼育動物」を企画運営。

主な著書等

学校ビオトープQ&A（監修）：東洋館出版社

環境をテーマにした学習活動50のポイント（編著）：教育開発研究所

生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査（分担執筆）ぎょうせい

小学校の算数教育・理科教育の国際比較（分担執筆）：東洋館出版社

高等学校学習指導要領の解説「理科」（分担執筆）：学事出版

21世紀を目指す教師教育（分担執筆）：日本学術協力財団

初等中等教育における生命尊重の心を育む実験観察や飼育の在り方に関する調査研究：平成11・1

## 2 年度科学研究費補助金研究成果報告書

\* \* \* \* \*

中 川 美 穂 子

獣医師 中川動物病院院長（西東京市）

お茶ノ水女子大学子ども発達教育研究センター研究協力員

全国学校飼育動物研究会事務局長 <http://www.vets.ne.jp/~school/pets/siikukenyukai.html>

全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰 <http://www.vets.ne.jp/~school/pets/>

社）東京都獣医師会理事

社）日本獣医師会学校飼育動物委員会副委員長

日本小動物獣医師会 学校飼育動物対策委員会副委員長

### 略歴

文科省委嘱研究・飼育手引き書「学校における望ましい動物飼育のあり方」作成委員

社）日本獣医師会「動物感染症監視体制整備（学校現場型）検討会」委員（平成 13,14 年）

日本学術会議：学校飼育動物に関する委員会 委員（平成 14 年度）

同 科学教育研連・獣医学研連共催シンポジウム「学校における飼育動物」

社）日本獣医師会学校飼育動物委員会 副委員長

### 主な著書等

新刊 「園・学校での動物飼育の成果～心・いのち・脳を育む～」全国学校飼育動物研究会編

嶋野道弘、無藤隆、嶋田安民、中川美穂子他

緑書房

「学校における望ましい動物飼育のあり方」(日本初等理科教育研究会 分担執筆)

文部科学省配送

「学校飼育動物と生命尊重の指導」教職研修読本 No 157

(嶋貝太郎国立教育政策研究所総括研究官と共著編)

教育開発研究所

無藤隆、嶋野道弘、宮川八岐、日置光久、永田繁雄、嶋貝太郎、桑原保光他

「学校飼育動物のすべて」監修執筆 (嶋野道弘他)

ファームプレス

「みんなで育てよう学校飼育動物」 H14 年全国学校図書館協議会推薦図書

少年写真新聞社

「子どもと動物—園での動物の飼い方・育てかた」

フレーベル館

S 63 年全国学校図書館協議会推薦図書

「紙芝居シリーズ「園、学校での動物の飼育とふれあい方」(童心社) 執筆監修

「小学校における、生命尊重の心や態度を育成する教材や評価のあり方に関する調査研究」

課題番号 13680219 平成 13 年度～15 年度科研費(基盤研究 C)

代表研究者 嶋貝太郎

### 主な雑誌記事

『学校マネジメント』 H16 年連載 「獣医師からの提言」

明治図書(株)

『幼稚園・保育所の運営トラブル解決事例集』(第一法規) H 16 年

『初等理科教育』 2005/4 月号から連載中 「学校の動物はいま」(日本初等理科教育研究会)

農文協

『学校マネジメント』 2005/10 月号 「知徳体の崩壊・対応方法」

明治図書(株)

『CAP』 2006/1 月から連載中 「学校の動物飼育と獣医師」

緑書房

『食農教育』 2006 年/1 月号 「この人に聞きたい」

農文協

『楽しい理科授業』 2006/3 月号 「最後の授業・爆笑とともに・・・」

明治図書(株)

『理科の教育』 2006/5 月号 「学校に期待する・・・生命尊重の心」

(株)東洋館出版社

『千葉教育』 2006/5 月号 「提言・」

千葉県総合教育センター

『総合的学習を創る』 2006/6 月号 「飼育から深く学ぶ体験活動とは」

明治図書(株)

『Nocco』 2006/6 月号 「飼育の悩み解決します！」

フレーベル館

『Com o コモ』 2006/6 月号 「生き物を飼おう！育てよう！のススメ」

(株)主婦の友社

『総合的学習を創る』 2006/7 月号 夏休み「ペットに関わる宿題のテーマ例」

明治図書(株)